



平成 25 年 12 月 6 日

各 位

会 社 名 株式会社 クリムゾン
(JASDAQ・コード番号：2776)
代表者名 代表取締役社長 姚 健
問合せ先 管理部部長 黒田 直樹
電 話 03-6659-5141

平成 26 年 1 月期業績予想(非連結)の修正に関するお知らせ

当社は、平成 25 年 9 月 3 日に公表いたしました平成 26 年 1 月期業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 業績予想の修正

平成 26 年 1 月期通期（非連結）（平成 25 年 2 月 1 日～平成 26 年 1 月 31 日）

(単位：百万円 %)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	1,375	△90	△127	△96	円 銭 △23.60
今回修正予想 (B)	956	△305	△361	△332	△80.86
増 減 額 (B-A)	△418	△214	△233	△236	
増 減 率	△30.4	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 25 年 1 月期)	1,907	△25	△117	△70	円 銭 △17.76

2. 業績予想の修正理由

当社が属しておりますカジュアルウェア市場におきましては、個人消費は、相変わらず節約・低価格志向が強く慎重な消費行動が続いております。

卸売事業におきましては、「RUSS-K」(ラス・ケー)及び「Piko Hawaiian Longboard Wear」(ピコ)を中心に、得意先毎への商品提案の強化を行い販売活動に努めてまいりました。

しかしながら、大手得意先の PB 化傾向の拡大、予想以上に残暑が長期化したために秋物商材の販売動向の不振や、冬物商材の立ち上がり投入時期が遅れるなど、売上高を落とす要因となりました。

また、円安により輸入原価が高騰し、売上原価が増加したことや、売上高の未達に伴う過剰在庫の消化販売を行ったため売上総利益面でも苦戦をし、営業利益が大きく減少いたしました。

ライセンス事業におきましては、卸売事業とのシナジー効果を高めることを目的に、サブライセンシー各社との協議を行いました。卸売事業同様に PB 化傾向の拡大や、円安による生産数の減少などが売上高を落とす要因となりました。

経費面におきましては、全社において徹底したコスト削減の推進を図っており、計画どおりの見込みであります。

また、今後の更なる円安により米ドル建ての取引に為替差損の発生が見込まれ営業外費用も膨らむ可能性があります。

以上の結果、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益は前回発表予想を下回る見込みとなりました。

3. 債務超過の見込み

上記のとおり、当社は、平成 26 年 1 月期において当期純損失 332 百万円を計上する見込みとなり、同期末において 182 百万円の債務超過となる見込みであります。

当社は、この状況を解消すべく、収益性向上のために事業再構築ならびに財務体質の強化を目的とした資本の増強策等の実施を検討してまいります。

※本業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上